

中国総合実践活動におけるコンピテンシー育成



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 講師

元 笑予 YUAN Xiaoyu



URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 中国・総合実践活動・コンピテンシー育成・総合的な学習（探究）の時間・特別活動・道德教育

研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 17: パートナリシップで目標を達成しよう

本研究は、中国の小学校・中学校・高等学校における必修課程「総合実践活動」に焦点を当て、その制度的特徴と教育的役割を明らかにすることを目的とする。「総合実践活動」は、体験的学習・探究的学習・社会参加を重視する中国独自の教育領域であり、近年はコンピテンシー育成の観点からその重要性が再評価されている。しかし、理念と実践の乖離、学校段階による実施の差異、教員の指導力のばらつきなど、多くの課題も指摘されている。

本研究は、こうした現状を踏まえ、同活動が児童・生徒のコンピテンシー育成にどのように寄与し得るのかを多角的に検討する。さらに、日本の教育課程における「特別活動」および「総合的な学習（探究）の時間」との比較を通して、「総合実践活動」の特質をより精緻に位置づける。日本の二つの領域は、それぞれ集団活動による社会性育成、課題解決的な探究学習を重視しており、中国の「総合実践活動」はその両者の性格を併せ持つと考えられる。本研究では、両国の教育課程の構造的比較を行い、「総合実践活動」がコンピテンシー育成において果たし得る独自の役割を明確にする。研究方法としては、カリキュラム文書や政策資料の分析による文献研究、学校現場での事例研究・観察研究・インタビュー調査などの質的研究、児童・生徒への質問紙調査による量的研究を組み合わせる。制度・実践・学習者の認識という複数のレベルから検討することで、「総合実践活動」の実態と可能性を総合的に捉える。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究が進展することで、中国の教育研究を世界標準のレベルへと引き上げるだけでなく、2030年を一つの目標として、アジアをはじめとする他国の教育政策の在り方を解明する上でも大きな波及効果をもたらすことが期待される。中国では、教育部が全国的な教育内容を規定しているものの、地方や学校はそれぞれの実情に応じて創意工夫を凝らし、独自にカリキュラムを編成することが可能である。教育の質の向上が求められる現在、地方や学校の特色を生かした教育課程の構築が重要な課題となっている。これまでの教育政策研究は理念的な議論に偏りがちであったが、本研究は具体的なエビデンスに基づいて政策と実践の実態を明らかにする点に独自性と創造性がある。とりわけ、「総合実践活動」を通じたコンピテンシー育成の可能性を検証することで、中国の教育改革に新たな視座を提供することが期待される。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「中国の小学校における「総合実践活動」とその特徴」
- ・「特別活動で OECD Learning Compass 2030 の Agency とコンピテンシーの発揮を図るための指導方法—小学校学級活動（1）を事例として—」
- ・「特別活動と総合的な学習の時間で育成される Agency とコンピテンシー—OECD 及び文部科学省の視点から見た小学校の教育実践」